



入学・進級おめでとうございます。今年度も昨年と同様に中学校図書館は、週3回 月・水・金に開館しています。4月は司書一人体制になりますが司書のいない日の昼休みは司書教諭の先生が開館します。今年度も四中図書館で素敵な本との出会いがあるといいですね。学級文庫の貸出しも始まりました。本と触れる時間を持つことで少しでも心に余裕が生まれたり軽くなったりすることもあります。新しい環境に慣れるまでに自分のために読書時間を作ってみましょう。さまざまなジャンルの本が図書館にあります。新しい学年でも本の世界を広げていきましょう。



図書館の開館日時

月・水・金曜日 昼休み・放課後

貸出 ひとり3冊 2週間 昼休み・放課後
返却 図書館入口の返却ボックス(ポスト)へ

「令和6年度 図書館利用案内」を配布しています。

俳句といえば・・・



小林 一茶

1763-1828

江戸時代後期に活躍した俳人の小林一茶。一茶は現在の長野県信濃町にあたる信濃国柏原の農家に生まれました。15歳で江戸に奉公に出ますが、その時に俳句を学び、その後は旅をしながら俳句の修行を続けました。

幼い頃に実母を亡くし、50歳を過ぎて結婚して得た妻と子ども達には次々と先立たれるという、幸福な家庭とは縁の薄い人生でした。小さな生きものや子どもたちに対するやさしい俳句の数々は、そうした一茶の悲しみの裏返しかもしれません。



春にはこんな本はいかが？

思わず考えちゃう ヨシタケシンスケ：著 914ヨ
この春入学した1年生のみなさんは、小学校とはちがう図書館の本に少し圧倒されたかもしれません・・・でも大丈夫。小学校のときに人気だったヨシタケシンスケの本もありますよ。(ただし絵本ではありません！)この本はエッセイ集です。身の回りの思わず考えちゃうあんなことや、つつい考えちゃうこんなこと。身近なことを面白く言語化された文やイラストを読んでくすと笑いたくなるこの感覚は小学校のとき読んだあの絵本と同じかもしれません。ぜひ手に取ってたしかめてみては？

桜守のはなし 佐野藤右衛門：作 627サ

日本全国を飛び回り、傷ついた桜の手当てをして、桜の新種を探す佐野さんは「^{さくらもり}桜守」とよばれています。桜守の仕事は桜が散って芽がでてからはじまります。「守るといっても保護するわけやない。愛情はかけるけどかまいすぎてもあさまへん。」佐野さんの言葉には、桜に込めた深い愛情を感じます。春だけではなく四季を通しての美しい桜の写真も素敵です。



サクラ味く 辻村深月：著 913ツ

本が大好きでいつも図書室で本を読んでいるマチは中学1年生。ある日読んでいる本に一枚の便せんがはさまっていました。そこには「サクラチル」という文字が・・・その日から誰かわからない相手と本を通しての交流が始まります。見知らぬ相手の心の内を想像しながら言葉を選ぶマチでしたが、だんだんもどかしくなっていきます。はたしてラストは・・・？